

## 東京港の取組状況

---

「新しい国際コンテナ戦略港湾政策の進め方検討委員会」

令和7年1月31日（金）



東京都港湾局

## 1 東京港の概況

- ・ 外貿コンテナ貨物取扱量の推移

## 2 交通混雑緩和・物流効率化に向けた取組

- ・ 東京港の混雑解消に向けた取組
- ・ 2024年問題を契機とした混雑対策の加速化
- ・ コンテナふ頭の機能強化
- ・ 物流効率化に向けた取組

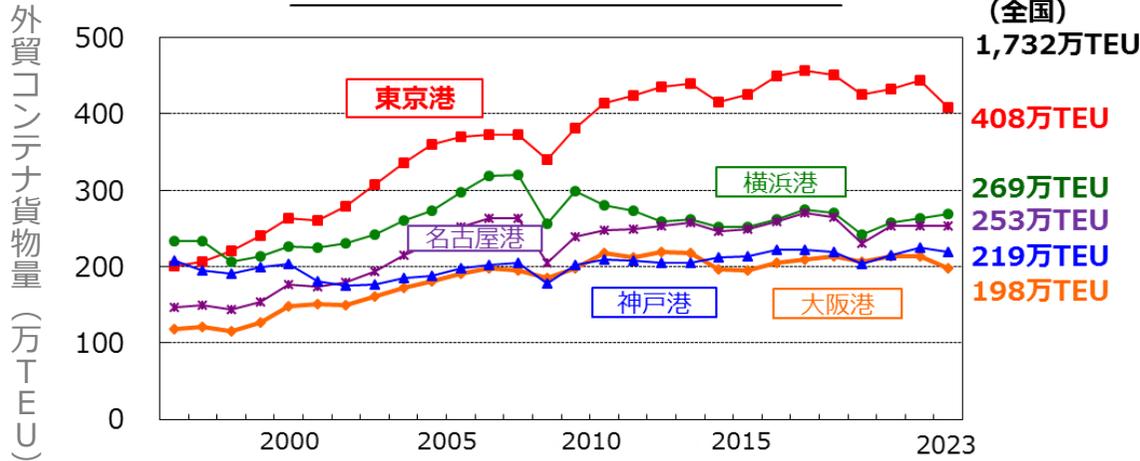
## 3 脱炭素化の推進

- ・ 東京港におけるカーボンニュートラルの推進

# 外貿コンテナ貨物取扱量の推移

## 年間取扱量の推移

外貿コンテナ取扱量の推移

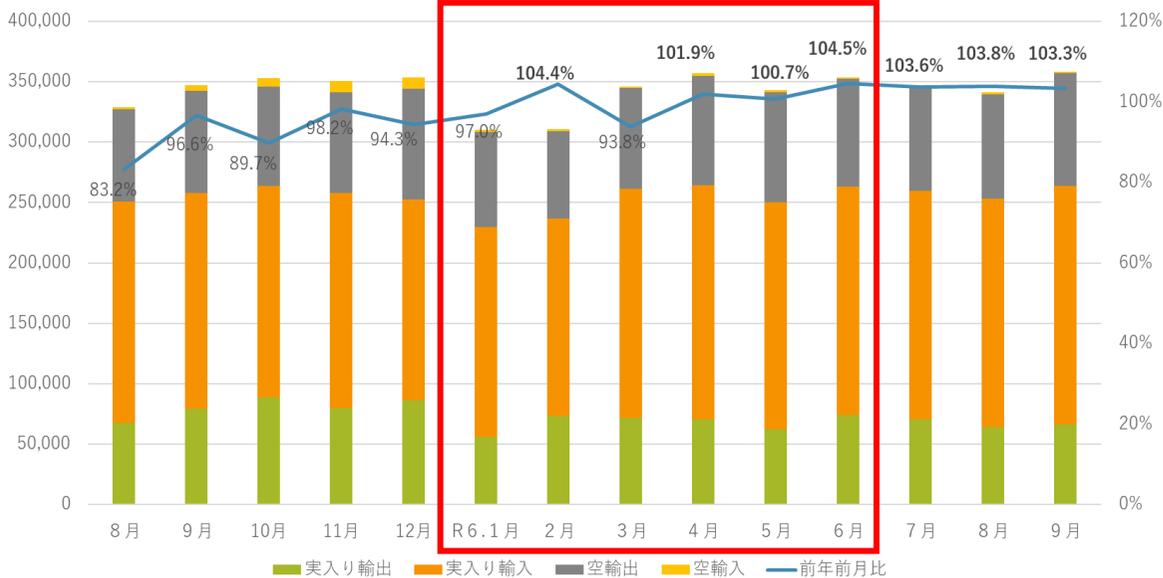


- 東京港の令和5年の外貿コンテナ取扱個数は408万TEU（前年比7.9%減）
- 平成10年から26年連続で日本一の取扱量
- 全国の外貿コンテナ貨物量の約4分の1を取り扱う

※「各港港湾統計」より作成、R5は速報値

## 月別推移

R6年上半期 202万TEU



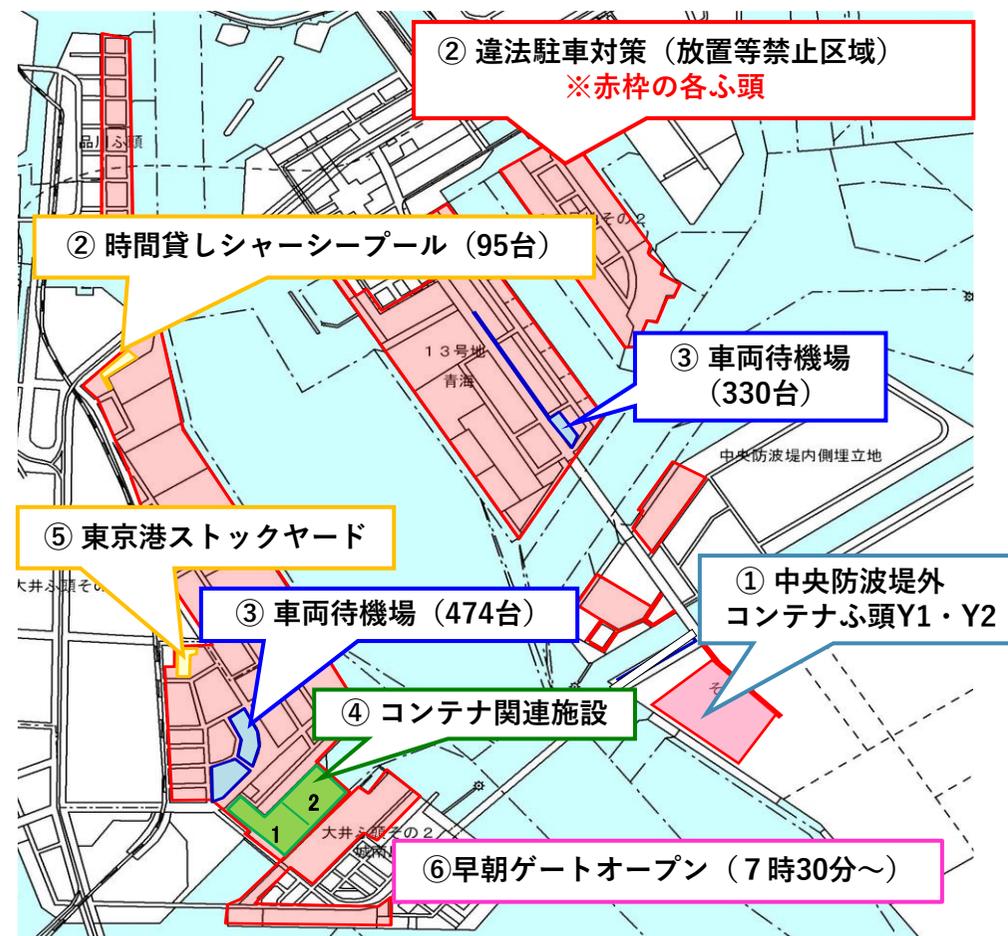
- 令和6年上半期（1月～6月）の外貿コンテナ取扱個数は202万TEU
- 令和5年上半期比で0.2%増

▶ 外貿コンテナ貨物は、国内消費が回復しつつある中で、輸入貨物が増加し、上半期の取扱個数は2年ぶりに増加

- コンテナふ頭周辺ではトラックが集中する夕方を中心に一部のターミナルのゲート前で交通混雑が発生
- ふ頭周辺道路の交通混雑の緩和やトラックの分散化に向け、ハード・ソフト両面から様々な取組を推進した結果、コンテナふ頭周辺の混雑は大幅に減少

## 混雑解消に向けた主な取組

- ① 中央防波堤外側コンテナふ頭の整備 (Y1・Y2)
  - ・ 平成29年11月 Y1供用開始
  - ・ 令和 2年 3月 Y2供用開始
- ② 違法駐車 (台切りシャーシー) 対策 平成27年 3月から実施
  - ・ 港湾法に基づき放置等禁止区域を指定 (巡回警備、警告フラッグ取付等)
  - ・ 受皿施設の設置 (大井時間貸しシャーシープール)
- ③ 車両待機場の整備
  - ・ 青海地区及び大井地区に車両待機場を整備
- ④ コンテナ関連施設の整備
  - ・ 大井コンテナ関連施設 (バンプール・シャーシープール) の整備
- ⑤ 東京港ストックヤードの整備 平成29年 3月開設
  - ・ 輸入コンテナ(実入り)貨物の一時保管場所を大井ふ頭に開設 (186区画)
- ⑥ 早朝ゲートオープンの実施 平成23年12月から継続実施
  - ・ コンテナターミナルのゲートオープンを1時間前倒し (7時30分～)



ゲート前の渋滞長 が、上記対策を講じる前と比較して、約 **71% 減少**

(待機車両の車列の長さの平均 1.26 km (平成23年) → 0.36 km (令和5年))

- 東京港へは日本全国からコンテナが輸送されており、その9割以上がトラック輸送であることから、いわゆる『2024年問題』を起因としたトラックの輸送力不足は東京港の物流にも直結する大きな課題
- そのため、ハード・ソフト両面から混雑緩和に資する港湾の機能強化や物流効率化の取組を加速化

## 東京港の取組（全体像）

### コンテナふ頭の機能強化

#### トラックのゲート前混雑の緩和

##### ■ ふ頭整備による機能強化

- ・ 中防外Y3整備、青海・大井再編整備の推進
- ・ 新海面処分場におけるふ頭整備計画

##### ■ ICTを活用した物流効率化

- ・ コンテナ搬出入の予約制導入
- ・ 荷役機械の遠隔操作化



### モーダルシフトの推進

#### 内航船・鉄道利用の促進

##### ■ 内航RORO船の受入れ機能の強化

- ・ 新規ふ頭（中防内貿ふ頭X6・X7）等の整備

##### ■ 内航船や鉄道を活用した輸送の促進

- ・ 内航・鉄道輸送に対する補助事業の拡充

##### ■ モーダルシフト促進に向けた検討・調査



### 「オフピーク搬出入」の推進

#### 荷主等と連携した搬出入時間の分散化

##### ■ ターミナル混雑情報の発信強化

- ・ 見える化システムを更に活用

##### ■ 「オフピーク搬出入」モデル事業の実施

- ・ 荷主等の「オフピーク搬出入」促進に向けたモデル事業を実施し、広く横展開

##### ■ 物流効率化に向けた広報プロモーション



# コンテナふ頭の新規整備・再編整備（1）

- 東京港では貨物の処理能力向上のため、中央防波堤外側ふ頭の新規整備や青海ふ頭・大井ふ頭の再編整備を推進



# コンテナふ頭の新規整備・再編整備（2）

## 中央防波堤外側コンテナふ頭Y3の整備

- 新規ふ頭の整備
  - ▶ Y3岸壁については、国の直轄工事で整備中
  - ▶ 水深16m、岸壁延長400mを有し、国際基幹航路に投入される大型船への対応が可能
  - ▶ 整備完了によりコンテナふ頭の施設容量は**45万TEU増加**



	Y1	Y2	Y3
供用開始	平成29年11月	令和2年3月	整備中
岸壁延長	230m	400m (耐震強化岸壁)	400m (耐震強化岸壁)
水深	-11m	-16m	-16m
総面積	13ha	20ha	23ha
ガントリークレーン	3基 (16列対応)	3基 (22列対応)	—
RTG	7基	15基	—

## 青海コンテナふ頭の再編整備

- 岸壁の延長・ヤードの拡張
  - A3ターミナル跡地を活用し、青海公共コンテナターミナルを大幅に拡張 (ヤード：24ha→34.2ha・岸壁870m→1,170m)
- 荷役の高度化
  - 東京港で初となる遠隔操作RTGの導入 (26基)

### 今後のスケジュール

令和7年度：A3の工事完了 (A3での遠隔操作RTG運用開始)  
 令和11年度：A0～2のリニューアル完了 (青海コンテナふ頭再編完了)



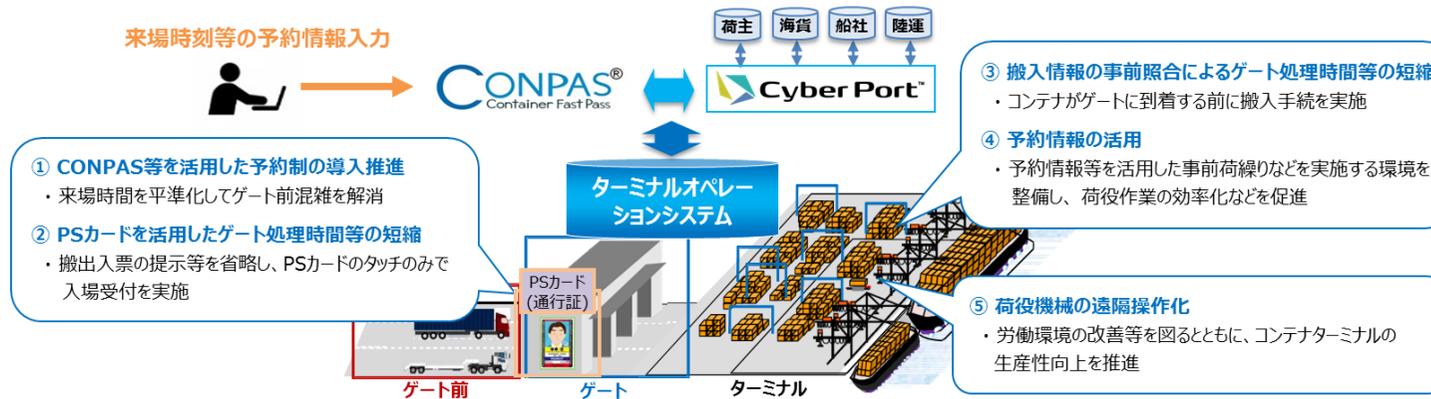
## 大井コンテナふ頭の再編整備

- 再編整備に向けた調整状況
  - ▶ 都、東京港埠頭(株)、日本郵船(株)、(株)商船三井、川崎汽船(株)及びワンハイラインズは、大井コンテナふ頭の再編整備の必要性について認識を共有し、その実施に向け具体的な検討を進めていくことについて合意 **【R6.3月プレス発表】**
  - ▶ 今後、関係者間で検討を進め、再編整備の概要や実施手順等を具体化

- 大井水産物ふ頭の移転
  - ▶ 大井水産物ふ頭の冷蔵倉庫群の移転に向け、都・東京水産ターミナル株式会社間で移転用地 (都有地) の貸付契約を締結 **【R6.8月プレス発表】**
  - ▶ 移転跡地は大井コンテナふ頭の機能強化のために活用予定



- 「CONPAS」等を活用した搬出入予約制の導入を推進し、特定の時間帯に集中して来場するコンテナ搬出入車両を分散化・コンテナ搬出入予約情報等をターミナルオペレーションシステム（TOS）とデータ連携し、ゲート処理時間等の短縮や荷繰りを効率化



## CONPAS®を活用した予約制事業の運用状況

### R4年度～東京港でCONPASの運用を開始

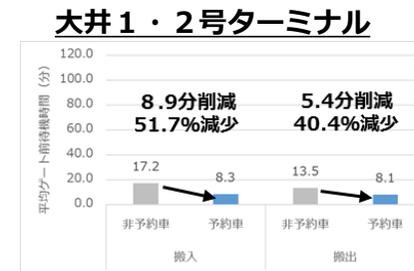
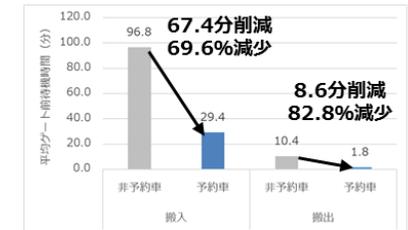
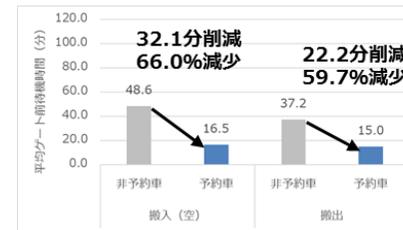
- 第1～3期：大井1・2号、3・4号で平日10日間実施
- 第4期：大井1・2号、3・4号で平日30日間、大井6・7号で平日10日間実施
- 第5期：大井1・2号、3・4号、6・7号で同時に平日10日間実施
- 第6期：大井1・2号、6・7号で同時に平日20日間、青海4号で平日10日間実施

期	時期	参加登録陸運店社数 (台数)	予約本数 (期間内総計)
第1期	令和4年8～9月	18店社 (366台)	493本
第2期	令和4年11月	47店社 (1,319台)	1,902本
第3期	令和5年2月	56店社 (1,510台)	3,095本
第4期	令和5年8～10月	176店社 (5,251台)	15,476本
第5期	令和6年1～2月	273店社 (6,282台)	4,543本
第6期	令和6年9月～11月	318社 (7,002台)	5,466本

## 平均ゲート前待機時間の削減状況

※R5年度実績 (第4期・第5期)

いずれのターミナルも平均ゲート前待機時間は、非予約車と比較し予約車のほうが短縮 (CONPASの効果を確認)



※予約車の平均ゲート前待機時間は車両待機場からゲート前までの移動時間も含む (大井3・4号ターミナルにおける搬出は待機場を経由しないため除く)

# コンテナターミナル所要時間等の見える化

- コンテナターミナルに関する情報発信ツールとして、東京港埠頭株式会社において「東京港ポータルサイト」を運営  
荷主等に対してもコンテナ搬出入時間の分散化を促していく取組の一環として、同サイトのリニューアルを実施

## 「東京港ポータルサイト」とは

東京港のコンテナターミナルに関する各種情報（ゲート関連や工事等）やコンテナふ周辺道路に関する情報（ライブカメラ映像、コンテナターミナルまでの所要時間）等を港湾関係者や物流関係者向けに提供するWEBサイト（東京港埠頭株式会社が運営）等

## リニューアル概要

### 1 主な変更点

#### (1) デザインの刷新

画面のレイアウト等を大幅に刷新し、各種コンテンツの視認性及び回遊性の向上を図るとともに、スマートフォンにおいても見やすいデザインに変更

#### (2) コンテナターミナル別の混雑傾向の公表

月毎の時間帯別、曜日別及び月別の平均待機時間（ターミナルに入場するまでの時間とターミナルでの滞在時間の合計）を毎月、同サイト上で公表（毎月10日更新）

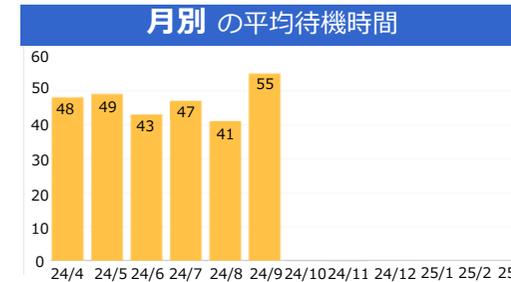
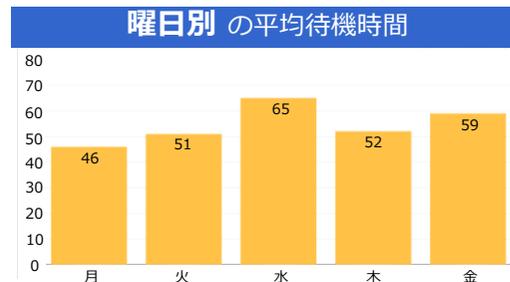
### 2 リニューアル時期

令和6年11月10日（日）

【トップ画面のイメージ(PC・スマートフォン)】



【混雑傾向の公表イメージ】



【東京港ポータルサイト】 <https://www.portal-tokyoport.jp/>



# 東京港オフピーク搬出入モデル事業

- ゲート前におけるトラックの待ち時間を削減し、物流効率化を推進するため、午前中などコンテナターミナルが比較的空いている時間帯に搬出入を行う「東京港オフピーク搬出入モデル事業」を実施

## 「東京港オフピーク搬出入モデル事業」とは

### 公募・選定

モデル事業募集 令和6年7月31日（水）～8月28日（水）  
 選定結果発表 令和6年9月11日（水）

### プロジェクトの概要

#### ■プロジェクト名

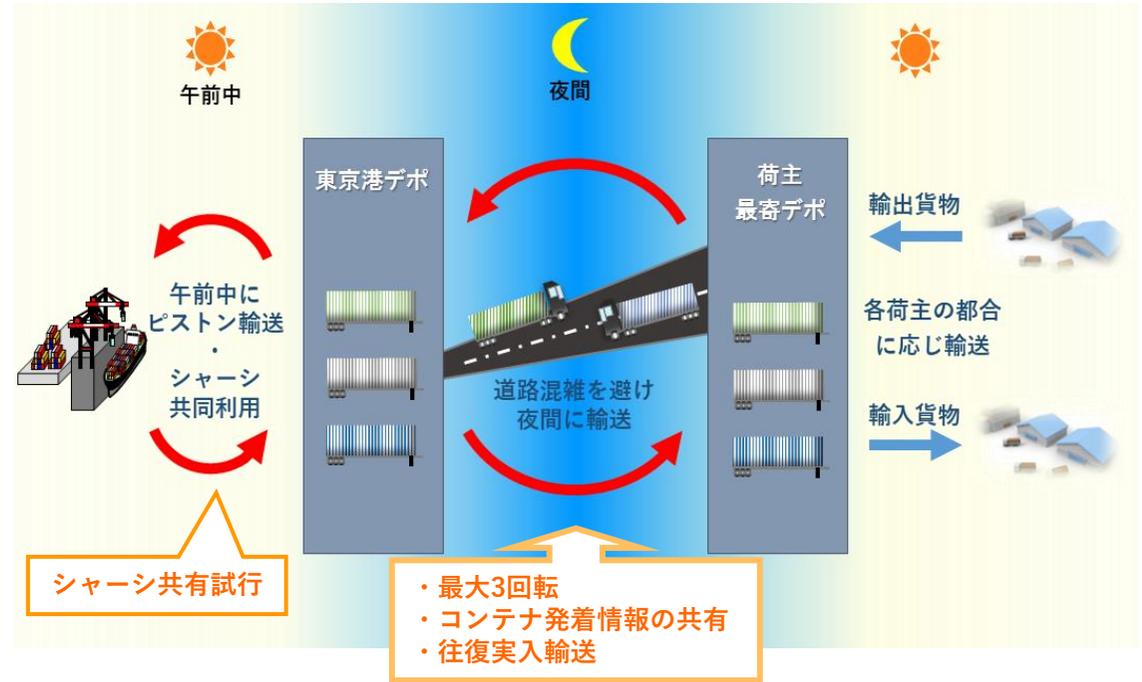
複数企業連携による東京港オフピーク輸送プロジェクト

#### ■提案企業

荷主企業 株式会社クボタ（代表）、本田技研工業株式会社  
 コマツ、三桜工業株式会社、白石カルシウム株式会社  
 株式会社鶴見製作所  
 物流企業 吉田運送株式会社、みなと運送株式会社  
 鈴与株式会社、株式会社日新

#### ■輸送期間

令和6年11月18日（月）～11月29日（金）



### 期待される効果

港湾エリアの  
混雑解消

運送会社・ドライバーの負担軽減

トラックの  
輸送効率向上

CO<sub>2</sub>排出量の削減

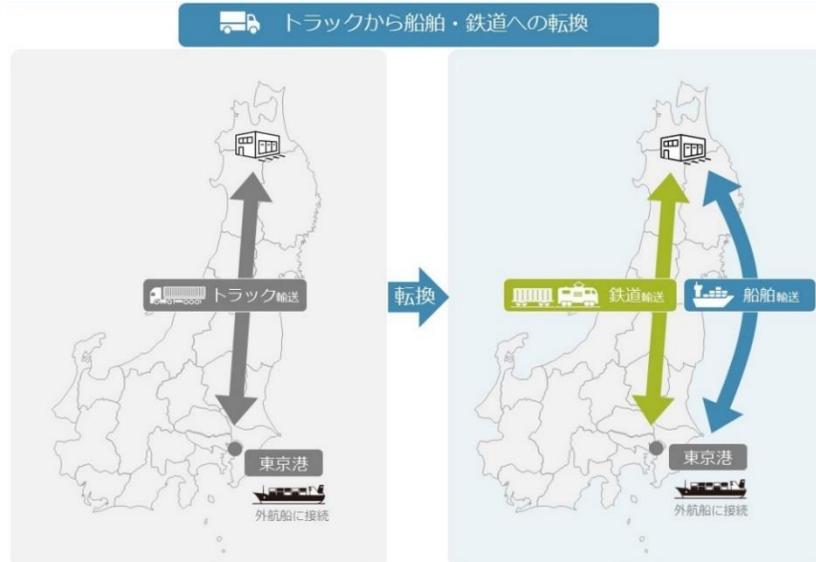
# モーダルシフトの推進

- 東京港の物流効率化や環境負荷軽減を図るため、海上コンテナの国内輸送において、モーダルシフトを行う民間事業に対する支援を実施
- モーダルシフトは、物流の2024年問題によるトラックドライバー不足に加え、輸送分野の脱炭素化を図るための対策としても有効であることから、令和6年度から補助制度を拡充

## 東京港物流効率化等事業補助金

### 制度拡充内容

- 港内横持輸送事業（船舶）の新設
- 鉄道コンテナ詰替輸送事業の拡充
  - 海上コンテナの全量を詰め替えて輸送する場合を対象としていたところ、一部の貨物の場合も対象化
  - 東京貨物ターミナル駅に加え、隅田川駅発着の貨物を対象化



### 補助事業の概要



フィーダー輸送事業	東京港と国内他港との間を内航フィーダー船により海上コンテナを輸送する事業
はしけ横持輸送事業	東京港と横浜港、川崎港及び千葉港との間をコンテナバージにより海上コンテナを横持輸送する事業
港内横持輸送事業（船舶） 【新設】	内航RORO船や内航フェリーにより海上コンテナを輸送するために、東京港内の内貿ふ頭と外貿コンテナターミナルとの間をドレイジ車両により横持輸送する事業、又は内航フィーダー船により海上コンテナを輸送するために、東京港内の異なる外貿コンテナターミナルの間をドレイジ車両により横持輸送する事業
港内横持輸送事業（鉄道）	鉄道により海上コンテナを輸送するため、「東京貨物ターミナル駅」と東京港の外貿コンテナターミナルとの間をドレイジ車両により横持輸送する事業
鉄道コンテナ詰替輸送事業 【拡充】	東京港で輸出入される海上コンテナ貨物の全量又は一部を、東京港のCFS（コンテナ・フレート・ステーション）等において、鉄道コンテナとの詰め替えを行い、「東京貨物ターミナル駅」又は「隅田川駅」を発着する貨物列車で当該鉄道コンテナを輸送する事業

- 東京港ではこれまで、太陽光発電などの設置や省エネ型の荷役機械の導入を推進
- 令和6年度は、再生エネルギー由来の電力の導入や荷役機械等における水素エネルギーの活用を進めるなど、脱炭素化の取組を加速

## グリーン電力の導入

- 令和4年7月から一部のコンテナふ頭に、再エネ由来の電力を導入。令和6年度は、全てのコンテナふ頭に導入を拡大



## 荷役機械の水素エネルギー活用

- FC（燃料電池）換装型RTGを導入する費用に対する補助（1/2）を実施し、RTG（140台）のFC換装型への転換を促進



水素燃料電池(FC)換装型RTG

## CNP推進協議会の立ち上げ

- 東京港カーボンニュートラルポート（CNP）推進協議会を立ち上げ、令和7年度秋頃の「港湾脱炭素化推進計画」策定を目指す



## 陸上電力供給設備の導入

- 設備の規格や設置場所、必要なコスト導入スケジュール等を検討するための基本調査をクルーズふ頭を対象に実施



- RTGをFCユニットに換装し、日本初となる水素を燃料とした荷役作業を令和6年10月より開始



## ふ頭背後地の脱炭素化促進

- ふ頭背後地特有の課題や、その解決策、脱炭素化モデル等の調査を実施し、脱炭素化に効果的な取組のPR事業を実施



環境面においても競争力のある港を目指し、今後も引き続き、脱炭素化に向けた取組を積極的に推進